

第3回 星陽中学校区地域部会 意見のまとめ

開催日：平成31年1月7日

会場：星陽中学校

(◎は市教委の発言)

1 学校再編検討会議、総合教育会議の報告（市教委）

主に平成30年12月25日に実施した総合教育会議の資料を元に説明

◎子どもに求められる学び

- ・2030年以降の社会の中で求められる力、今の子どもたちに付けるべき力、求められる学び（主体的・対話的で深い学び）について。

◎小中一貫教育

- ・小中一貫教育が求められる背景・理由を紹介し、今後、時間をかけて詳しく説明していくこととした。

◎学校再編のイメージ（地図を元に説明）

- ・5校の学校を設置する場所について説明。第1校区は、吉川、口吉川、細川地区の全学校が統合したとしても、10年後には各学年1クラスになる可能性がある。しかし、三木市の約60%を占めるこの地域に、1校は学校を設置すべきという方向性を総合教育会議で確認した。
- ・別所中、三木中、三木東中校区で2校設置（第4校区、第5校区）と考えている。第4校区は、子どもが減少し、第5校区は増加の傾向があるため、今後の推移を見る必要がある。
- ・星陽中校区の学校をどうしていくのかを検討するのに必要な情報を、できるだけ反映した資料を作成した。今後、検討をお願いしたい。

2 統合（校区）、小中一貫校への再編

○もう少しバランスを考えて、第5校区の候補地の円を三木地区、細川地区に近づけることはできないか。

◎設置場所として決定したわけではないが、地域の重心、子どもの人口等を加味して、候補地の円は描いている。今後、必要となる要素が出てくれば検討していく。現時点で「変更します。」とまでは言えない。

○第一校区の候補地の円は、細川には掛ってこないのか。

◎「細川につくる可能性があります。」とまで、現時点では言えない。ただ、候補とした円の範囲は、平地や山など、実際の土地の状況までを加味したものではない。

○総合教育会議を傍聴しての印象であるが、中学校の統合を経ないで、小中一貫校にというイメージであったがどうか。

◎基本的には中学校をまず統合してからと考えている。小中一貫校への再編は、10年から20年の長さで考えているが、第1校区は、児童生徒数が適正規模であるので、できるだけ早く取り掛かりたい。仮に、今取り掛っても、ある程度の時間を要するので、まずは中学校の統合と考えている。

○その間は小学校はそのままか。

◎基本的にはそうなる。

- 新しい学校を建てるということは、必然的に小学校も合流するということか。
その新しい学校を〇吉川地域に建てるか、吉川地域に建てるかで、いろんな考えが出る可能性がある。
- 細川からは学校が無くなるということだろう。
 - ◎今は、可能性として言えることを議論のテーブルに乗せる段階で、いつ建てるかまでは、まだ発表できる段階ではない。〇吉川地区や細川地区が今後どういう考えで、どの学校と一緒にするのかにより、候補地の円の中でも、設置位置は変わってくる。現時点での意見が欲しい。
- 中学校の統合と小中一貫校の設置のどちらが先かということになるが、先が見えると親は考えやすいのではないか。何年後にできるという目標の年度が分かれば、考え方も変わるのではないか。そうすれば譲歩案も出てくるだろう。
- 細川は三木に行きたいと考えているが、この地図は細川地区が三木地区に行くことが反映されていないように感じる。
- 三木地区の北部に候補地の円が来てもいいのではないか。
 - ◎将来的に、三木中は校区が分かれる可能性もある。一旦三木中校区に行っても、例えば20年後に三木東中に近いところに移動という可能性もある。
- 小中一貫校にする時に、今の学校を使うことはできないか。
 - ◎小中一貫教育を考えると、新しく校舎（小中一貫校として）を建てることを考えている。現在の学校を改修するとしても、ほぼ建て替えに近くなるのではないか。
 - ◎例えば、一度三木中へ行っておいて、新しい学校が第一校区にできた時点でその学校へ全員で移るということは考えられない。しかし、第1校区は小規模の学校になるため、特認校とし、第1校区の学校に、三木市内全体から子どもを募ることも可能性としてはある。特認校とした場合、校区外から来る場合、必ず保護者の責任で通学することとなり、市として通学方法を整備することはない。
- イレギュラーなパターンは自力でということは、それぞれで考えればいい。通学は、自己責任でよいと考える。
- 5校区だけでなく、3校区という意見があるなら、それも検討する必要があるのでは、ないだろうか。それも一つのやり方ではないだろうか。
 - ◎10年20年後でも3校となると、人数が多すぎて小中一貫校にすることは困難である。加えて、多くの子どもの通学距離が遠すぎることになる。
- 星陽中と志染中をスピード感をもってやるとするならば、全体像よりそちらが先に取り組むことではないだろうか。星陽中をどうするかを、まずは考えたい。細川と〇吉川では少し思いが違うが、このままなら、星陽中が三木中や吉川中に吸収されてしまう感じがする。吉川中に決まるならば、吉川中と星陽中を統合した新たな中学校づくりという考えで進めたい思いがある。
- この地図では、〇吉川が吉川中との再編ありきのようだ。そうなってほしい方もいるが、〇吉川地区にも子どもが分かれるのが嫌なので、細川地区と三木中へ行きたいという親もいる。
- 中学校は地域の課題から切り離して、生徒の学習環境を第1に考えて検討してはどうか。

- 小学校を卒業したら、当然中学校に行くことになる。中学校と小学校を切り離しては考えられない。中学校へあがることを踏まえて考えるべき。
- 細川も口吉川も学校があるから成り立っている地域。限界が来るまで残すべきだ。
- 義務教育学校には口吉川には賛成する人は少ないのではないかと思う。
 - ◎星陽中をどうするかを考えると、将来的なことを視野に入れて話をしないとけない。第一校区の小中一貫校の位置も、細川、口吉川の動きにより、位置が変わる。市内で一番に第1校区に手をつけるのは、すでに義務教育学校の適正な規模になっているからである。
- 細川の要望書では三木方面が多かった。細川が三木中へという考えならば、そうしてもらえるのか。
 - ◎今回、新たな情報を検討材料としてお示しした。地域の多くの方々が、今回の情報等を知らずに決めてしまうということが無いようにしなければならない。市教委として、星陽中を割りたいとは思っていない。ご意見は尊重していくが、今後しっかり協議してもらいたい。
- 細川地区では、第1校区の小中一貫校がどこに立つかによって統合先が決まることになる。
 - ◎今日は可能性として、案をいくつか示させていただいたので、各地区での議論のテーブルにのせて欲しい。
- 細川、口吉川としての総意、星陽中としての総意、どちらを市教委は聞きたいか。
 - ◎星陽中校区としてまとまってほしいと考えている。しかし、そうでなければ各地区の意見をお聴きすることもやむなしとなる。

3 その他

- 中学校の喫緊の課題はいつ動き出すのか。地域の意向が決まった時点で動き出すのか。総合教育会議では丁寧に統合していくという話だったが。
 - ◎スケジュール案では、平成32年度から可能であるとしていたが、平成32年というのは難しい。行わない方向である。
- 事前に十分交流し、反省点も踏まえながら、3年ぐらいのスパンはしっかりとって準備し、統合を進めて欲しい。迅速だけではなく、しっかり準備をお願いしたい。
- 統合についての判断は、地域の考え方がすべてか。
 - ◎地域の考え方は十分尊重したいが、10-0で地域の意見がまとまるわけではない。地域の意見を聞いたうえで、総合的な判断をし、有識者会議の意見も聞きながら、最終的には総合教育会議で決定していく。
- 通学方法はまだ決められないが、通学時間が気になる。部活が選べても、通学時間がかかるため、部活がしっかりできないというのは困る。
- 小学校へ上がる前の保護者の意見をしっかりと聞かないといけな。
- 分校制度の話も議論してほしい。
- 小さい学校の教育も良い。地域を支えることとなる。
 - ◎それぞれの地域、そして2地域合同でも、今後議論して欲しいと考えている。